

1 家政学の定義

家政学は人間の生活を科学する実践的総合科学である。

片山委員長の発言記録など 省略

2 住居学分野に固有の特性

- ・生活者の視点で、住宅、建築、地域環境などを考える。
- ・生活者の立場から、安全で健康的に生活できる場を実現させる。
- ・衣食住の一つである住居に焦点をあて、その周囲の近隣や地域環境を含めた生活の場に関して、あらゆる側面から学問する。

3 住居学を学ぶすべての学生が身につけることを目指すべき基本的な素養

- ・広い視野（グローバルな視点）から住居や地域を理解する（できる）。
- ・自然科学、情報、処理技術などの知識を得、その知識を用いて生活環境に関する問題を論理的に分析する（できる）。
- ・住生活の向上を促すさまざまな技術を習得し、それらを踏まえて生活環境の住みよさを考える（られるようになる）。
- ・住民が住み良いとされる環境改善の指導が可能となる（5 市民生活上の意義に？）。

4 学習方法および学習成果の評価方法に関する基本的な考え方

① 学習方法；

生活学・社会学的、技術・工学的、分科・芸術的側面など学習すべき分野は広い。しかも前述したように住環境の向上（住居水準の向上）に貢献できる人材を養成するには、基礎的能力と専門的能力を習得できるようにすることが必要である。その方法としては、講義、演習、実験、実習（設計、フィールド調査など）、実態調査 海外研修、研究論文執筆など多様である。

② 評価：

デザインの表現力、居住環境の改善・想像に貢献できる力、住宅の設計計画の力、社会とのコミュニケーションをはかれる能力などを評価するにあたって、実験・実習系科目等では個別講評。講義系科目においては、学期の中間に小テスト、小レポートなどを実施、返却し、その成果を学生自身が確認できるようにするなど、内容、方法に対応した適切な評価方法を工夫することが必要である。